

輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

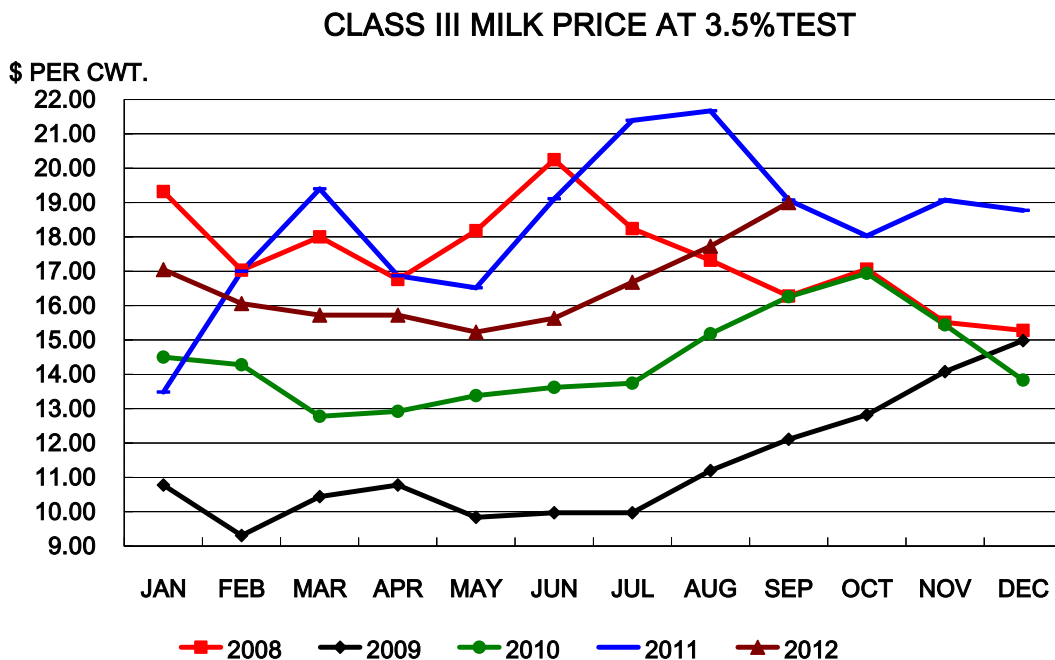
北米の東海岸において、10月1日付で港湾作業員によるストライキ実施が予告されました。これに際して、西海岸に貨物が集中する可能性が示唆されたため、特殊チャージの10月1日付けでの導入が、各船会社から9月上旬に相次いで発表されました。このコンジェスチョン・チャージ（Congestion Charge：混雑に対するチャージ）と呼ばれる特殊チャージは、\$1,000前後/コンテナと非常に高く、導入に対しては強い警戒感が広まりましたが、9月21日時点で東海岸でのストライキが90日後に延期となったため、同チャージの導入は見送られることとなりました。しかしながら、東海岸での労使協議は合意には至っておらず、あくまでも「延期」となっているため、協議やストライキの動向次第では再び同チャージの1月1日付けでの導入が検討される可能性もあります。\$1,000前後のコスト増となると、コンテナで輸送される北米産乾牧草・ヘイキューブ等は、78円/ドル換算で3,500-4,000円/トンも値上げをすることとなります。東海岸での労使協議に先駆けて、11月1日付けで再び導入を唱える船会社も出てきているようなので、今後の動向には引き続き注意が必要です。

WTSA（Westbound Transpacific Stabilization Agreement）加盟の船会社から10月1日付けでGRI（General Rate Increase：基礎レート）\$200値上げ実施の発表がされていましたが、10-12月分のBAF（Bunker Adjustment Factor 燃料費調整係数：燃料価格変動に対して調整される割増運賃）の\$84値下げに乗じて、GRIを\$84値上げ（合計した海上運賃は据置き）としている船会社・航路が多い模様です。GRIについては、11月1日付けで再び\$200値上げ実施の発表がされており、海上運賃は引き続き強含みで推移することが予想されています。

米国の乳価動向

米国の乳価（下記グラフ参照：クラスⅢチーズ向け）は、米国内の景気に影響されて弱含みで推移していましたが、乳製品の相場価格上昇にともない、6月から徐々に値上がりで推移しています。飼料コストも値上がりしているため、米国内酪農家は引き続き厳しい経営を強いられています。アルファルファの産地価格・情勢にも影響が

あるため、米国の酪農情勢・乳価動向については今後も引き続き注意が必要です。



ビートパルプ

<米国産>

輸出向けビートパルプの主産地であるミネソタ州とノースダコタ州は、あまり早魃傾向ではなかったため、生育は概ね順調に推移し、8月中旬から12年産の収穫が始まりました。冷涼な気候が続いて収穫が遅れた昨年11年産よりも、2-4週間早い進捗となっています。単収についても、11年産は20st/エーカー（ビート大根の単収）を下回る圃場もありましたが、12年産は例年並みの25-26st/エーカー程度となることが見込まれています。

穀物相場が高騰しているため、米国内酪農家のみならず、欧州向けや日本向けからもビートパルプの引合いが増えている模様です。作柄は昨年よりも順調と伝えられていますが、ビートパルプの産地価格は弱含むことなく、引き続き高値で推移することが予想されています。

アルファルファ

<ワシントン産>

ワシントン州コロンビアベースンでは、1番刈の60%程度が雨当たり被害を受け、2番刈も50-60%程度が雨当たり被害を受けました。プレミアム品の発生量は、ともに限定的となっています。また、3タイの発生量が大きく減少し、生産効率の高いBIGベールでの生産が大半となっています。

産地では3番刈の収穫が終了しています。雨当たり被害はほとんどない模様ですが、全体的に茎が細めの仕上がりとなっています。現在4番刈の収穫が進行中で、天候は良さそうのため、良品の収穫が期待されています。



コロンビアベースン アルファルファ4番刈検品スタック 9/20撮影

<オレゴン産>

クリスマスバレーでは、7月下旬から2番刈の収穫が始まり、既に終了しています。1番刈の収穫進捗がやや遅れ気味だったため、2番刈を早めに収穫する圃場と、生育の進捗を待って収穫する圃場に分かれたため、収穫スケジュールにバラつきがある模様です。

クリスマスバレー、クラマスフォールズともに、早い圃場では9月上旬から3番刈の収穫が始まっています。両産地とも天候は良さそうのため、良品の収穫が期待されています。

<ネバタ産>

産地では、1番刈の40-50%程度が雨当たり被害を受け、2番刈も30-40%程度が雨当たり被害を受けました。8月下旬から3番刈の収穫が始まり、既に終了しています。中西部旱魃と穀類高騰の影響から、ネバタ産アルファルファはコロラド州などの他州の酪農家からの引合いが強くなっていると一部で伝えられています。

<ユタ産>

産地では、2番刈の多くの圃場が雨当たり被害を受けた模様です。3番刈については概ね天候も良く、雨当たり被害は少ない模様です。ネバタ産と同様に、中西部旱魃と穀類高騰の影響から、ユタ産もコロラド州などの他州の酪農家からの引合いが強くなっていると伝えられています。UAE向けの引合いも引続き強い模様で、産地価格は強含みで推移しています。

<カリフォルニア産>

インペリアルバレーでは、7番刈の収穫が進んでいます。産地を襲った7月末の激しい降雨はアルファルファにも影響を与えていますが、一般的に成分・品質が落ちる「サマーハイ」と呼ばれるアルファルファの発生が中心となっているため、日本向けについては大きな影響はないと考えられています。UAE・中国向けについては引き続き引合いが強く、雨当たり品はUAE向けに多く出荷されているとも伝えられています。

チモシー

<米国産>

米国産チモシーの1番刈は50-60%程度が雨当たり被害を受けており、近年まれにみる厳しい状況となっています。絶対的なハイグレード品不足により、酪農向けプレミアム品、中間グレード品も馬向けに向けられており、酪農向けのチモシーは中間グレード品でさえも、確保が極めて困難な状況となっています。したがって、産地価格についても堅調に推移し、特にハイグレード品は非常に高値で推移しています。

産地では2番刈の収穫が進っていますが、穀物相場の高騰を受けて、転作が進められる圃場も多い模様です。そのため2番刈の作付面積については、前年対比で大きく減少することが一部では予想されています。1番刈の状況を受けて2番刈の引合いも強まっているため、ハイグレード品のみならず中間グレード品でさえも、確保が非常に困難な状況となっています。産地価格についても非常に高値で推移しています。



左：コロンビアベースン チモシー2番刈検品スタック 9/4撮影



右：エレンズバーグ チモシー2番刈検品スタック 9/20撮影

<カナダ産>

レスブリッジ（南アルバータ）では、1番刈の収穫時期に雨当たり被害が発生したため、ハイグレード品は1%以下となり、中間グレード品以下が中心の作柄となっています。ドライランド（中央アルバータ）でも、1番刈の収穫時期に雨当たり被害が

発生したため、ハイグレード品の発生量は限定的となっています。両産地とも米国産1番刈の状況を受けて引合いが強まっているため、ハイグレード品のみならず中間グレード品でさえも、確保が非常に困難な状況となっています。産地価格についても非常に高値で推移しています。

レスブリッジでは、9月中旬から2番刈の収穫が始まっている模様です。天候は良さそうのため、良品の収穫が期待されていますが、国内向けからの引合いも強く、刈取り直後から産地価格は非常に高値で推移している模様です。

スーダングラス

<インペリアルバレー産>

12年産は早播きスーダングラスの作付面積の減少やスーダンの種子価格高騰を受けて、茎細のハイグレード品については発生量が限定的となっており、需要に対して大きく不足することが見込まれています。続く早播きの2番刈や、小麦収穫後に播種する遅播きのスーダングラス（アフターウィート）の良品収穫が期待されていましたが、7月末の激しい降雨と8月中旬のまとまった降雨によって、事態は急変しました。これ以上の茎細ハイグレード品の発生が難しくなるだけでなく、中間グレード品やローグレード品の発生量についても、予想よりも大きく減少する見込みとなっています。9月に入ってから、茶葉が若干少ないスタックも収穫されている模様ですが、茎細品の発生はほとんどないと見込まれています。また産地価格については、激しい降雨があった以前（7月）よりも、同じ茎サイズ・色のグレードと比較してさらに高騰して推移しています。

12年産スーダングラスは、かろうじて雨に当たっていないか軽く雨に当たったスタックにも、グレードを問わず引合いが集中しています。激しい雨当たり品も、UAE向けに多く出荷されている模様で、産地価格が下支えされる要因ともなっています。



インペリアルバレー スーダングラス 検品スタック

左：8/23撮影 右：9/26撮影

＜北カリフォルニア産＞

1 番刈の収穫は80%程度終了しており、間もなく2番刈の収穫が始まる見込みです。これまで天候については問題がなく、比較的良品が多く発生している模様です。茶葉の混入も少ない傾向のようです。

インペリアルバレー産の状況を受けて、12年産は北カリフォルニア産の引合いも強まっています。そのため産地価格については、インペリアルバレー産と同様に、昨年よりもさらに高騰して推移しています。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

1番刈と2番刈は昨年11年産に比べて良品の発生が多い傾向で、順調に推移してきましたが、3番刈は7月末の激しい降雨により、大きな被害を受けました。雨当たり被害を免れた圃場も適期に刈取れず、刈遅れ気味となったスタックも多い模様で、その後の降雨も影響して湿度が高い気候が続いたため、3番刈は茎が硬め・太めで、茶葉が多めの傾向となっている模様です。

産地では現在、4番刈の収穫が終盤を迎え、早い圃場では5番刈の収穫が始まっています。4番刈についても湿度の高い気候が続いたため、ブリーチ（色褪せ）や茶葉が多めの傾向となっている模様です。

早くから11年産の在庫もなく、また3番刈以降の作柄が良くない状況下で、韓国向けの引合いも強まっているため、12年産クレイングラスの産地価格は引続き堅調に推移しています。

バミューダ

バミューダハイ、バミューダストローともに、7月末の激しい降雨により雨当たり被害を受けました。特にストローについては、酷く被害を受けている模様です。早くから11年産の在庫もなく、バミューダの種子価格が高騰し生産コストも上昇している状況下で、国内向け、輸出向けともに強い需要が続くと予想されているため、今後も引続きタイトで、産地価格も弱含むことなく推移することが予想されています。

ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

フェスキューストロー、ライグラス（ペレニアル種）ストローはともに、12年産の収穫が終了しています。早くから11年産の在庫もなく、年々減少している作付面積は今年もやや減少しており、加えて韓国向けからの引合いも強くなっているため、12年産以降もストロー類は引続きタイトで推移することが予想されています。産地価格も、これまでにないほど高値で推移しているため、在庫を抱えて売るタイミングを見計らっている生産農家も今年は多い模様です。

豪州産オーツヘイ

＜西豪州＞

西豪州の早い圃場では、9月中下旬から12年産の収穫が始まりました。本格的な収穫は10月上中旬から始まる見込みで、この時期の天候が作柄に大きな影響を与えることとなるため、動向が注目されています。

7月は記録的な降雨不足に見舞われたため早魃傾向となっていました。8月に入ってから降雨が何度かあり、生育進捗も少し回復している模様です。一昨年の早魃のときよりも降雨量はあり、生育も一昨年の10年産ほど悪くはない見込みですが、収量は例年よりも少なくなることが予想されています。

早魃の影響で極端に収量が少なかった10年産に続き、11年産は雨当たり被害により輸出向けオーツヘイを生産さえできなかった圃場も多く、生産農家は厳しい経営を強いられています。安定した収入が見込める穀類への転作が多いと予想されるため、12年産の作付面積は15%以上も減少することが予想されています。



西豪州北部 オーツヘイ圃場 10/2撮影

＜南豪州＞

南豪州でも、早い圃場では9月中下旬から12年産の収穫が始まりました。本格的な収穫は10月上中旬から始まる見込みで、この時期の天候が作柄に大きな影響を与えることとなるため、動向が注目されています。

西豪州とは違い、7月にも産地では例年並みの降雨があったため、生育は順調と伝えられています。播種時期から局地的に降雨があった影響で、地域・圃場ごとに生育状況にバラつきもみられる模様です。

西豪州からシフトしてきた旺盛な11年産の引合いを背景に、12年産オーツヘイの作付面積は昨年と同程度か、少し増えることが予想されています。

<東豪州（ヴィクトリア州）>

ヴィクトリア州では、12年産の本格的な収穫が10月中下旬から始まる見込みです。南豪州と同様に7月にも例年並みの降雨があったため、生育は順調と伝えられていましたが、8-9月は例年より降雨量がやや少なく低温だったため、生育進捗が少し良くない地域・圃場もある模様です。

南豪州と同様に、西豪州からシフトしてきた旺盛な11年産の引合いを背景に、12年産のオーツハイの作付面積は増えることが予想されています。

以 上